

平成28年度 山形美術館事業計画書
- 企画展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
日本のアニメーション 美術の創造者 山本二三展	<p>山本二三（やまもと・にぞう）は日本を代表するアニメーションの背景画家・美術監督としてアニメ草創期から数々の名作に携わってきた。宮崎駿監督の「天空の城ラピュタ」「もののけ姫」、高畑勲監督「火垂るの墓」、細田守監督の「時をかける少女」といった作品において、入念な取材と丁寧なスケッチ、豊かな色彩感覚で描かれた山本の背景画は、キャラクターと物語が生きるために欠かせない存在として知られている。</p> <p>本展では、その40年に及ぶ画業の初期から最新作まで、作家自ら選んだ背景画、スケッチ、イメージボードなど約220点を展示し、幅広い県民層に詩情あふれるアニメーション美術の魅力を紹介する。</p>	4月1日(金) - 5月15日(日)	<p>一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜日は中学生以下無料</p>
		7月22日(金) - 8月28日(日)	
金子みすゞ・ 金澤翔子 ひびきあう詩と書	<p>大正から昭和にかけて活動し「こだまでしょうか」「私と小鳥と鈴と」など、弱きものへの慈愛に満ちた詩が今なお多くの人に愛される夭折の童謡詩人・金子みすゞ（1903-1930）。そして現代において、ハンディキャップを負いながらも大河ドラマの題字や東大寺や厳島神社などへの奉納で精力的に活動を続ける天才書家・金澤翔子（1985-）。</p> <p>本展ではみすゞの生涯を振り返る貴重な資料の数々とともに、みすゞの詩から得た感性を表現した翔子の作品群、さらに翔子のこれまでの代表作など百数十点を展示する。時をこえて出会った二人の女性作家がおりなす詩と書の豊かなハーモニーとその魅力を幅広い県民層に紹介する。</p>	7月22日(金) - 8月28日(日)	<p>一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜日は中学生以下無料</p>
		10月14日(金) - 10月30日(日)	
統一山形誕生140年 絵画と写真にみる 山形の近代	<p>1876（明治9）年8月21日に山形県・置賜県・鶴岡県が統合して現在の山形県が誕生し、2016年で140年を迎える。初代県令となった三島通庸は、産業や土木、公共施設の開発事業のほか、教育・医療分野においても整備を推し進め、現在の山形県の礎を築いた。</p> <p>三島通庸が成しとげた県土の近代化の姿は、西洋の最新技術として明治時代にもたらされた写真や油画で記録された。近代化する山形の姿を記録した代表的な人物として、山形市に東北初の写真館を開業し、三島県令の「御用写真師」として活躍した菊地新学、そして日本における洋画の開拓者にして三島県令の命で山形を訪れた高橋由一が挙げられる。</p> <p>本展では、当時の山形を記録した写真、絵画、版画等を紹介し、山形県の原点を振り返る。</p>	10月14日(金) - 10月30日(日)	<p>一般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料 ※「場所と記憶」と統一料金</p>

事業の名称	事業の内容	期間		備考
		入	場料	
場所と記憶 永岡大輔 × 千葉奈穂子	<p>「場所と記憶」をテーマに山形にゆかりのある現代の作家が写真や映像で捉えた作品を紹介する。山形市に生まれた永岡大輔は、一枚の紙の上に鉛筆によってイメージを描いては消す行為を編集せずに記録した映像によるアニメーションを制作している。岩手県出身で酒田市在住の千葉奈穂子は、サイアノタイプ(日光写真)という、太陽の光で像を青く焼き付ける初期の写真技法を用いて、家族の家の撮影や、東北の町に暮らす人びとの現在の思いや記憶をつづる作品を中心に写真や立体、映像などにより発表している。</p> <p>身近にありながら失われゆく風景や家族の記憶の記録や、見えない存在を示唆するような作品を紹介することで、現代に生活するわれわれが過去と未来を想像力によって結びつける機会とする。</p>	10月14日(金) － 10月30日(日)		
		一般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料 ※「絵画と写真にみる山形の近代」と統一料金		

－ 3県展－

事業の名称	事業の内容	期間		備考
		入	場料	
第71回 山形県総合美術展	<p>山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946(昭和21)年6月に第1回展が開催されて以来、本年で71回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第58回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。</p>	9月3日(土) － 9月19日(月・祝)		
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料		
第41回 山形県総合書道展	<p>山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は1975年に第1回展が開催され、本年で41回を迎える。搬入された作品を県書壇の重鎮らによる合同審査による優秀作、入選作を選定し表彰する。またギャラリートークや、記念展として講演会や作品集刊行により、県書道界のなお一層の振興をはかる。</p>	9月24日(土) － 10月2日(日)		
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料		
第51回 山形県写真展	<p>山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年で51回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたいえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。公民館や生涯教育のなかでカメラや写真に親しむ人が増えており、本年も約2,500点の応募作品が予想される。</p>	2月23日(木) － 3月20日(月・祝)		
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料		

- 収藏品によるテーマ展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
山美のフランス絵画 すべて見せます 吉野石膏コレクション・ 服部コレクション	当館収藏品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、多様な作品が揃っている。また、1985年の本館新設に際して新たに収集した服部コレクションも、現代フランス絵画の巨匠たちによる高品質の作品群として県内外に知られている。本展は、これまで併せて紹介することの少なかったこれら二つのコレクションを展示し、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の流れを約150点の作品で紹介する。	12月1日(木) - 1月29日(日)	
		一般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料	

- 収藏品展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収藏品展	収藏品展 山形の近代洋画―泉美展の先達たち 6月8日-6月25日 常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション- 珠玉のフランス近代絵画」/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 500円 高大生 300円 小中生 100円 収藏品展によって料金が変わることもあり。 ※土曜日は中学生以下無料	